令和２年度 進路だより

# Frontier Spirit!

J Hirata

第 ２ 号
R2.05.15
文責：角田

## 「今、できること」を積み上げて、「これから」を見据えよう

5月になりました。新型コロナウィルスの感染拡大が収束せず、まだまだ予断を許さない状況が日々続いています。5月11日の時点で、**世界の感染者は410万人を超え、死者も28万人を超えている**とのことで、世界全体がこの感染症によって脅かされている緊急事態が続いています。私たちの住む山梨県でも、感染者や死者が急増しているわけではありませんが、緊急事態宣言が全国に拡大され、休業要請が延長に継ぐ延長となり、本校においても3月以降、生徒たちが通常通りの学校生活を送ることができておりません。生徒の皆さんは、本来ならば清々しい初夏の陽気の中で勉強に、部活動に励む日々を送れているはずなのに、とても残念な気持ちで日々を過ごしていることでしょう。特に運動部に所属している3年生の中には、県の高校総体やインターハイが開催中止となってしまったために、部活動の再開を待っている間に、事実上引退を余儀なくされた形になってしまった生徒も少なくないと思います。本当に残念なことです。また保護者の皆様におかれましても、長引く自粛要請の中で健康上の心配はもちろんのこと、生活の様々な面で不安を抱えていらっしゃることと推察いたします。私たち教員も、感染拡大防止のために分散勤務の形態をとりながらも、生徒の学習保障のために、**ICTを活用した連絡体制の確立や解説動画のコンテンツ作成**など、様々な手段を用いながらこの未曾有の事態を乗り越えるべく努力しております。

一体いつまでこの状態が続くのかは誰にも分からず、**出口のないトンネルの中をひたすら進んでいるような気持ち**というのが正直なところですが、そのような状況の中でも**将来に希望を失わず、力強く生きていくことが大切**だと考えます。第二次世界大戦下、アウシュビッツの強制収容所での体験をまとめた著書『夜と霧』で有名な心理学者ヴィクトール・E・フランクルは**「どんな時にも人生には意味がある。未来で待っている人や何かがあり、そのために今すべきことが必ずある」**と言ったそうです。確かに私たちが置かれている現在の状況は、これまでに誰も経験したことのない辛いものかもしれません。しかし、私たち一人ひとりが今置かれている状況の中でさえも、「できること」は必ずあるはずです。そうした「できること」を毎日少しずつでも積み上げていけるかどうか、それが今、私たちに試されているのかもしれません。大切なことは**希望を失わなず、一日一日を大切に過ごす**ことです。でも、困ったときには「助けて」と声をあげましょう。**人は協力しあうことで様々な難局を乗り越えてきた**のですから。大変な日々はまだ続くことが予想されますが、「これから」を見据えて、ともに頑張っていきましょう！

## 進路指導部に関わる事項の当面の予定について

新型コロナウィルス感染防止対策の観点から、進路指導部に関わる事項については以下のように対応いたします。

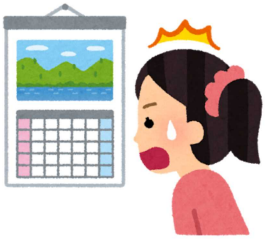
**【自習室の利用・図書館残留・放課後課外ついて】**

**★5月については、登校が可能となった場合でも、次のような対応とします。**

**①自習室は早朝・放課後・休日とも利用不可。**

**②図書館残留（放課後に図書館で学習すること）についても不可。**

**③放課後課外（理数科・理数クラスの8校時）は実施しない。**



**【模擬試験について】**

**★5月30日（土）・31日（日）で実施予定の模試については次のようにします。**

**①駿台模試については1年生は実施しない。２、３年生は自宅受験で対応する。**

**②3年生の進研共通テスト模試については自宅受験で対応する。**

**【進路行事について】**

**★6月5日(金）大学出張講義（3年生）・12日（金）キャリア教育（1年生）・26日（金）模擬裁判（2年生）についてはすべて中止。HRでの活動などに振り替える予定です。**

## 令和3年度の入試について

ご承知の方も多いと思いますが、令和3年度入試、つまり現在の高校3年生が受験することになる大学入学試験については**大きな変更**が行われることになっています。昨年度は「英語の外部検定試験の成績利用」や「大学入学共通テストの記述式の導入」といったトピックが盛んに取り上げられましたが、最終的には様々な問題点を指摘され、結局そのどちらも実施が見送られたわけでした。しかしながら、「大学入試センター試験」の代わりに「**大学入学共通テスト**」が行われること、また入試区分が「**一般選抜**」「**学校推薦型選抜**」「**総合型選抜**」となり、学力だけではなく**多面的・総合的な評価**のもとで入学者を選抜することについては、次の令和3年度入試から実施が予定されています。

しかし、現在、新型コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言とそれに伴う学校の休業により、学校の始業が遅れていたり、各地で授業の実施状況が違っていたりして、通常通りの学校生活を送ることができていません。そのため、**新しい入試制度で本当に実施ができるのか**不安が広がっています。そのため、萩生田光一文部科学大臣も、4月17日の閣議後に、「**総合型選抜（旧AO入試）と学校推薦型選抜（旧推薦入試）の募集時期を遅らせる必要性**」について言及しました。文部科学省では、**総合選抜型（旧AO入試）については出願時期を9月以降、合格発表時期を11月以降**とし、**学校推薦型選抜（旧推薦入試）については出願時期を11月以降、合格発表時期を12月以降にする**との方針を示していました。しかし、学校の始業が遅れ、通常の授業開始の見通しも立っていないことから、**今後この予定が変更される可能性もある**と思います。なぜなら、総合選抜型（旧AO入試）・学校推薦型選抜（旧推薦入試）では、高校3年間で行った様々な活動が多面的に評価されることになっていますが、新型コロナウイルスの感染拡大により現3年生の部活動は行われていない上に、県レベルの総合体育大会や文化部のコンクール、さらにはインターハイなど中止が決定しているものも多く、現実的に活動を評価することができないからです。また、休校がさらに長期化すれば、学習進度への影響も避けられず、**入試内容のそのものの妥当性が問われる**可能性も否定できません。

もちろん、まだ正式に文科省から発表があったわけではありませんので、あくまでも可能性ということですが、今後の文科省からの発表や各大学から発信される情報には十分注意を払う必要があると思います。進路指導部でも情報収集に努め、何か新しい情報があれば速やかに発信していきたいと思います。

## 進路を考えるヒント：「テクノロジーの進歩と表現の民主化」

外出自粛が求められる今、これまでになく自宅で過ごす時間が増えました。私自身も空いた時間を**YouTube**を見て過ごすことが多くなりました。私は比較的初期からYouTubeを見ている方でしたが、最初の頃は「クオリティもテレビには及ばないし、**誰がそんな素人のホームビデオみたいなの見て楽しむんだよ**？」と批判的な発言をする人がとても多かったように思います。でも、今、時代はどうなっていますか？2020年の現在では逆に「**テレビなんてどこが面白いの？**」って言い、テレビなんかまったく見ずにYouTubeばかり見ている人（特に若い世代？）が多いのではないでしょうか？これは一体…？　昨年度、大学出張講義で本校に講演に来ていただいた**明治大学の宮下芳明先生**によれば、「かつての大衆はプロの表現者にお金を払い、作品を受け取るだけの**受動的消費者**だった。今は自由に作品を配信し、互いに享受できる**創造的生活者に変容した**。いわば『**表現の民主化**』が進んだ」（4月26日読売新聞より）とのことです。つまり、テクノロジーが進歩したおかげで、コンピュータが小型化・パーソナル化・低価格化し、誰もが容易にコンテンツの**「作り手」**になれる時代が来たんですね。それを宮下先生は「表現の民主化」と呼んでいます。宮下先生はさらに表現がアーティストの専有物ではないのと同様、研究も専門家だけのものではなくなり、「**研究の民主化**」も進んでいくだろうとおっしゃっています。そうなったとき専門家に求められるものは何か？それは「**新しい価値を生む発想力**」だと…これからますますテクノロジーは進歩して行くことでしょう。でも「できる」ようになったら、「**何をするか**」の方が大切になってくるのでしょう。YouTubeだっていつかは過去のモノになってしまう。「**価値の創造**」、まさに**Frontier Spiritの出番**というわけですね。

山梨県立甲府南高等学校
進　路　指　導　部

URL https://www.kofuminami-h.ed.jp
E-mail　shinro@kofuminami-h.ed.jp